

## &lt;全体分析&gt;

試験時間 90 分

## 解答形式

記述・論述・描図・選択・マーク

## 分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

長文の問題文が増加したため、難易度に変化はないが、かなり取り組みにくくなった。

## 出題の特徴や昨年との変更点

設問の多くは空所補充で、一部に問形式を含む。受験生にとって目新しい問題を、誘導に従って解いていかなければならない。

## その他トピックス

特になし。

## &lt;大問分析&gt;

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	空所補充 ・問形式 (記述・描図・選択)	力学・電磁気 (運動量保存則・力学的エネルギー保存則・荷電粒子の運動・円運動)	物理	運動量保存則と力学的エネルギー保存則を適切に適用すればよい。設定が複雑に変化するので、文章をよく読んで素早く処理することが必要である。	標準
II	空所補充 ・問形式 (記述・描図・選択)	電磁気 (電流が作る磁場・電磁誘導・交流)	物理	個々の設問はさほど難しくはないが、長文の問題を読み込んで、条件設定や与えられた物理量を確実にとらえるのに時間がかかる。	標準
III	空所補充 ・問形式 (記述・描図・選択)	熱 (気体の状態変化・サイクル)	物理	気体の状態変化に関する問題。後半は、可動壁のついた容器の一部を液体中に沈めて状態変化させている。本質的な内容は標準的だが、文章を読んで正確に状況を把握するのがやや難しい。	やや難

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

## &lt;学習対策&gt;

1. 基本事項を正確に把握する。
2. 題意を正しく把握するための読解力を養う。
3. 図を用いて状況設定を正しく把握する習慣を身につける。
4. 正確で迅速な計算力を養う。